姉と弟の会話⑧ー２　中学理科　身のまわりの現象／いろいろな力２

接触力・遠隔力　　2021.7　Mulberry / Lakeside House K

秘密の研究所一階ラウンジの大画面超高精細ディスプレイから、研究員Ａ（アイリーン）と研究員Ｂ（ニック）が笑顔で手を振った。二人（宇宙科学研究室）は出張中で、ステルス大型宇宙ステーション（SLSS-1）に滞在している。「キューポラ（観測用モジュール）からオーロラが見えるわ」映像を地球に切り替えた。緑色にぼんやり輝いている。……突然画面から地球が消えた。「NO SIGNAL」と表示されている。「どうしたんですか？」僕の呼びかけに何の応答もない。不意に天井から吊り下げられた照明器具の灯りが消え、部屋に流れていたBGMも聞こえなくなり、ディスプレイには何の表示もなくなった。

姉さんが飛行場から慌てふためいて戻って来た。「私のジェットグライダーの横を、カモメのロボットが飛んでたのよ。翼を大きく広げてね」それは研究員Ｉ（アイラ　機械工学研究室）が製作したロボットだ。「急に上昇したかと思ったら、失速して落下したの。私も急降下して追いかけたけど、回収できなかったわ」木の枝に引っかかったそうだ。「そのとき、強い風が吹き始めて樹々が大きく揺れていたわ。風を利用してやっと飛行場までたどり着いたのよ」ジェットエンジンが不調で滑走路にやっとたどり着いたそうだ。

姉さんは一気に話し終えると、懐中電灯を持って洗面所へ行き身支度を整え、気持ちを落ち着かせた。「あらまあ……」鏡を見ながら髪をブラシでとかすと、髪の毛が浮き上がってしまう。あとで知ったことだが、そのころ世界中の伝書鳩が行方不明になり、渡り鳥が方向感覚を失っていたそうだ。

「これを見てごらん」僕の横に座った研究員Ｊ（アイザック　物理・化学研究室）がポケットから方位磁針（コンパス）を取り出すと、それをテーブルの上に置いた。針が不規則に振れ、位置が定まらない。コンパスを手で押してすべらせると、ちょうど洗面所から戻った姉さんの前で静止した。「こんなに突然の激しい磁気嵐（太陽活動の影響で発生）は初めてだ！　予測できなかった」研究所の所長（スティーヴン）が立ち上がって、ゴムのサスペンダー（ズボンつり）を手で引っ張った。「謎の星の文明と関係があるかもしれない。私はちょっと失礼するよ。緊急事態だ」そう言って、あたふたとラウンジをあとにした。

「研究室に戻るよ」僕たちはヒゲの研究員Ｆ（ドミトリ）と長髪の研究員Ｊ（アイザック）の後に続いた。エレベーターは動かない。階段は真っ暗だ。僕はリュックから懐中電灯を取り出し、先頭に立った。途中で落とした懐中電灯を姉さんが拾った。地下一階理工学研究センターの物理・化学研究室に到着。「電子機器はほとんど故障したようだな……」アイザックが困った顔をした。「その棚にあるばねばかりや上皿てんびんは大丈夫だね」と僕。

その夜、みんなで研究所の外に出た。天空が裂け、シャワーのように幾筋もの光が降り注いでいた。

地球上ではいろいろな力がはたらいている。次の力と関係があると思われる部分に、アンダーライン（下線）を引いてみよう。

①　弾性力　　②　摩擦力　　③　垂直抗力　　④　張力
⑤　重力　　⑥　磁力（磁石の力）　　⑦　電気力（電気の力）